

## ～フェアリー ソードフィッシュ(Swordfish)雷撃機



本機、ソードフィッシュ雷撃機は、第二次世界大戦で使用された、英国海軍の雷撃機です。空母で運用される艦載機で、イタリア海軍の停泊地を夜間に襲撃した「タラント空襲」(1940年11月11日)や、「ビスマルク追撃戦」(1941年5月26日)では魚雷をドイツ戦艦ビスマルクの舵付近に命中させ、行動の自由を奪いました。旧式に見える複葉機でありながら、前者は21機中19機が、後者は24機全機が帰還し、脅威の生存率を誇りました。特に、後者は嵐の中で空母から離発着が行われ、全金属製の重たい機体であれば、作戦行動は無理であったと思われます。英国には古いものを大切にする文化がありますが、この機体も鋼管布張りの古き良き時代の伝統的な構造を踏襲しています。本機は同構造をまさに熟成させた機体と言え、古い技術を簡単に捨ててはいけない、という教訓を我々に残してくれています。なお、日本海軍は、水深の浅い停泊地にいる敵艦を攻撃する真珠湾攻撃の作戦立案時に「タラント空襲」を参考とし、戦艦大和の水上特攻では「ビスマルク追撃戦」の教訓により舵を破損しても操舵ができるように予備舵を積んで出航しました。ソードフィッシュはアジアで運用された機体ではありませんが、個人的には何かしら日本との縁を感じます。

### 【模型について】

英国のエアフィックス(Airfix)1/72 インジェクションキットです。1/48ではタミヤの傑作キットがありますが、1/72ではマッチボックスの佳作があったためか、最新版のキット化が遅くなり、ようやく本国のエアフィックスが決定版キットを数年前に出してくれました。張り線を施すための労力と根気は必要ですが、それに応える素性の良さが、このエアフィックスのキットにはあります。ネオジム磁石を使って、魚雷とロケット弾+増槽は取り換えを可能にしています。(中川裕幸 2021年8月)